

千代田区関係主体の環境意識・行動調査と主体間連携についての研究及び提言：地域社会における企業の環境・CSR活動を考える(平成16年度千代田学事業 報告書)

KASHIWAGI, Yuto / 石神, 隆 / 堀内, 行蔵 / 田中, 充 / 山田, 元紀 / 長野, 浩子 / 水上, 真理子 / 小林, 朋生 / 関根, 枝美 / 足立, 乃梨子 / 柏木, 勇人 / 太田, 彩方 / 南, ひかり / 伊東, 一夫 / ISHIGAMI, Takashi / HORIUCHI, Kozo / TANAKA, Mitsuru / YAMADA, Motonori / NAGANO, Hiroko / MIZUKAMI, Mariko / SEKINE, Emi / KOBAYASHI, Tomoki / ADACHI, Noriko / OTA, Ayaka / MINAMI, Hikari / ITO, kazuo

(出版者 / Publisher)

法政大学地域研究センター

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

49

(発行年 / Year)

2005-03

編集後記

編集後記

法政大学地域研究センターは、平成 16 年度の千代田区が主催する「千代田学」事業から助成を受けて、千代田区の関係主体の環境意識及び環境行動の実態把握とそれら関係主体間における連携についての調査研究をおこなった。そして、その結果を踏まえて関係各主体に対しての課題と提言を行うことが本調査研究の目的であった。

そのために、区内に立地する上場企業 296 社を対象に、アンケート及びヒアリング調査を実施し、その調査結果を踏まえて、平成 17 年 3 月に法政大学で「地域社会における企業の環境・CSR 活動を考える」とのテーマでシンポジウムを開催した。シンポジウム当日には、企業と行政関係者を中心に大学関係では大学生及び大学院生など事前の予想を上回るほどの参加があって、この問題提起が極めて今日的で話題性の高い内容であったことを示す結果となった。

企業の関係者にとって、千代田区の本社が地域に対してなにか社会貢献しているか、などおそらく一度も聞かれたこともない質問であったようである。しかし、たとえ千代田区の夜間人口が昼間人口の 20 分の 1 であり、夜間には誰もいなくなる街であってもそこには地域社会が存在していることへの認識がこの質問によって始まったとも考えられ、その意味ではこの企画が時代に先駆ける画期的なものであったことはまちがいないものと自負している。

しかし、実は問題はここからはじまるとおもう。つまり、そのような認識を千代田区の関係主体がどうしたら共有することができるのか。共有から何が生まれてくるのか。そこからなにかを生み出すための仕掛けが必要となるのではないか。このような試行錯誤を繰り返すことからももしかしたら分権社会が誕生するのかもしれない。

いずれにせよ、わが国は過去 150 年間に明治維新と太平洋戦争での敗戦という二度にわたる国家的大変革を経験してきたが、これらの変革はすべて上からのものであり市民レベルからのものではなかった。そして今、地方分権推進法の成立によってはじめて明治維新以来続いてきた中央集権的国家体制から地方分権制度へと一大転換を迎えているのである。そうした時代的転換期に至って漸く市民社会誕生の気配が出てきたのである。上意下達的社会から、フラットな構造の社会への転換をわが国では非革命的過程で進展しようとしている。それは、市民の生活レベルから生まれようとしているのである。とはいえ、それは黙っていても決して成就するものではないことは明らかであるが、それはどのような過程を経ながら実現されようとしているのか。本調査研究は千代田区で実際に起きている現象を通して解明するためのものであった。

この企画の実施にあたっては多くの関係各位のご協力をいただいた。ここに改めて御礼を申し上げるとともに、益々のご発展をねがうものである。

平成 17 年度の「千代田学」についても、引き続き調査研究をおこなうこととなっている。そのテーマは、「区内立地大手企業が CSR 活動の一環として行う、区立中小企業および区内幼小中学校の環境マネジメントシステム及び環境教育への支援の可能性についての調査および研究」である。この課題は本調査研究の延長線上にあり、さらに具体的な政策内容が研究対象となると思われる。

(執筆担当者：山田)